



サーガ外伝  
生きることに絶望する幼い  
命



ジジ

へその緒を首に巻きつけてやってきた赤ん坊は、泣き声をあげない。  
その顔の右半分は赤く、左半分は蒼白。

妊婦の母親とともに、その夫の暴力を受け続けた赤ん坊は、  
生に絶望し、ソラへもどろうとしているのだろうか？

ベッドの母親は出産の疲労で、わが子を見つめ祈り続けることしか  
できない。

「がんばれ！がんばれ！空気をすいなさい！こっちへくるんだ！」  
医者は生まれでた赤ん坊に叫び続けながら、へその緒をはずしその  
でん部をたたく。

とりかこむ看護師たちも、赤ん坊を呼び戻そうと声をあげ、  
必死に祈る。

蛍光灯の光が一瞬ゆらいだ。

「オギャーっ！」

赤ん坊の叫びが部屋中を希望の光で満たしていく。

「おっおおおー——」

赤ん坊を抱きかかえ、医者が歓喜の叫びをあげる。

みなが涙をながし、祝福の笑顔で赤ん坊を迎える

赤ん坊はなぜもどってきたのだろう。

幼い彼は希薄な灰色の空を見上げている。  
田園に囲まれるあぜ道にポツリと一人で立ち、  
灰色の空を見上げている。

保育園が休みの今日、母親とずっと一緒にいれるはずだったのだが、  
ポツリと一人で立ち、灰色の空を見上げている。

貝塚公園からずっと遠いところ、そこで車から彼を降ろし、  
「ここで少しまっとってね 動いたらいかんよ」  
そういい残すと母親はどこかへ行った。

灰色の空が呼んでいる、彼はそう感じる。

ながいながい時間、幼い彼は、見渡す限り田園の景色、  
その中心のあぜ道に立ち、希薄な灰色の空を見上げている。

ポツリ一人で立ち続ける幼い少年。  
灰色の空は彼を呼ぶ。